



平成30年度の 子ども司書が選んだ おすすめ本のリスト です。 夏休みに読んでね!





『やさしいライオン』

やなせ たかし/作 フレーベル館

みなしごライオンのブルブルをおかあさんのかわりにそだてたのは、めすいぬのムクムクでした。ブルブルは大きくなってとかいのどうぶつえんにいき、はなればなれになりました。あるひムクムクのこもりうたがきこえてきたので、ブルブルはおりからとびだして、ムクムクをさがしにいきます。

とてもあたたかく、やさしいきもちに なれるものがたりです。

『へいわってすてきだね』

安里 有生/詩 長谷川 義史/画 ブロンズ新社

ル 学一年生の安里くんがかいた詩に、 は せ がわよいふみ 長谷川義史さんが絵をかきました。

変量くんのへいわをねがうきもちと、 「へいわ」とはなにかをかんじることが できます。



『ドラゴンにごようじん』

茂市 久美子/作 国土社

子ぎつねのきいくんが、たんじょうびにおじいちゃんからもらったマッチばこをあけると、中からドラゴンがあらわれました。このドラゴンは、とってもくいしんぼう。かいぞくからうばったほうせきやきんかも、おかしにかえてたべてしまいます。





『メリーメリーおとまりに出かける』

ジョーン・G・ロビンソン/作 岩波書店

メリーメリーという 女の字が、おにいちゃんたちとおるすばんをするおはなしです。メリーメリーはすえっ字だけど、かわいくておもしろいので、いつもみんなを楽しませてくれます。

『よだかの星』

宮沢 賢治/作 岩崎書店

よだかはみにくい常です。ほかの常は、よだかを見るだけでいやになってしまいます。ある夕方、たかがやってきて「市蔵と名がをあらためろ」といい、よだかは「遠くの遠くの空の向こう」に行くことを決めました。そうです、きらわれ者のよだかは、星になろうと考えたのです。



ちゅうがくねんむけ 中学年向



『動物病院のマリー』

タチアナ・ゲスラー/作 学研教育出版

毎日パパの動物病院を手伝っているマリーの夢は、動物のお医者さん。ある日、けがをした子鹿を助け、友達のマイケとマルクスといっしょに、子鹿を助ける冒険が始まります。子犬のチョコチップもとてもかわいいです。

『大どろぼうホッツェンプロッツ』 プロイスラー/作 偕成社

大どろぼうホッツェンプロッツがおばあさんのだいじなコーヒーひきをぬすみました。「ぼくたちがつかまえよう。」 単年カスパールは友だちのゼッペルといっしょに、ホッツェンプロッツをつかまえようと決心します。はらはらワクワクして、どんでんがえしがあって、本当におもしろいですよ。





『キョーレツ科学者・フラニー1 モンスターをやっつけろ!』

ジム・ベントン/作 あかね書房

フラニーはあやしげな実験と研究が大好きながかった。学校では、みんなとなかなかをだちになれません。 得意の実験でなかよくなろうとすると…。

『子犬のきららと捨て犬・未来』

今西 乃子/作 岩崎書店

きららと素来は、完整で光です。ある時、簡じ飼い生さんに飼われることとなり、いっしょに生活することになりました。未来は少しお姉さんなので、いろいろな事をきららに教えてくれます。そして、本当の技だちになっていきます。





『わけあって絶滅しました。』

丸山 貴史/作 ダイヤモンド社

たくさんの生きものがこの他から消えています。どうしていなくなってしまったのでしょうか。油断?やりすぎ?不器用?不運?絶滅の理由にもいろいろあって、生き残るって大変。

笑いながら学べる、絶滅した生きものたちのイラスト図鑑です。

こうがくねんむけ



『ジュニア空想科学読本』

柳田 理科雄/作 KADOKAWA

この本はアニメやマンガの空想の世界を科学で考えたものです。ドラえもんのタケコプター、ドラゴンボールのかめはめ波、名探偵コナンのアポトキシン4869など、不思議な現象を検証します。すると意識さの結末が…。

『十年屋』

廣嶋 玲子/著 静山社

「忘れたくても忘れられない大事な思い出を、1年の命を引き換えに10年間あずかります。」 たいできと引き換えに10年間あずかります。」 たいであると執事の猫カラシがあずかったのは、大事なぬいぐるみや大切な写真。 あたたかくて少しこわいお話です。



『ファンタスティック・ビーストと魔法使いの旅』



J.K.ローリング/作 静山社

魔法使いのニュートは、カバンに魔法動物を入れて ニューヨークにやってきましたが、何匹か逃がしてしまいます。ニュートは、人間のジェイコブをまきこんで魔法動物たちを見つけだそうとしますが…。

『世界一クラブ』

大空 なつき/作 KADOKAWA

小6の始業式、悪人が先生を人質にたてこもっていた。徳川光一は、先生を救うためのメンバーを集めることにした。1人はだれでも投げとばせるすみれ、もう1人はものまねはうまいけれどドジな健太。和馬とクリスも加わって、悪人をやっつけろ。





『妖怪一家九十九さん』

富安 陽子/作 理論社

『そして五人がいなくなる』

はやみね かおる/著 講談社

アミューズメント・パークに突然あらわれた「伯爵」が、子どもたちをありえない場所で次々と消していきます。物忘れの名人でマイペースな夢水清志郎は、この謎を解決できるのでしょうか。わかりやすいけれど、しっかりとしたミステリーです。



図書館では、地域の読書リーダーとして活動する さかい子ども司書を養成しています。

字ども司書とは、図書館により親しみ、読書の楽 しみを友だちや家族に広げるため、絵本の読み聞 かせやおすすめ本の POP作成などの活動をして いる子どもたちのことです。



堺市立南図書館 堺市南区茶山台 1-7-1 電話 072-294-0123



堺市南区役所企画総務課 堺市南区桃山台 1-1-1 電話 072-290-1800

令和元年7月発行